



いきいき北っ子

笑顔のスタート

令和7年度がスタートし、一月あまりが過ぎました。入園当初の子どもの中には、慣れない場所、初めて出会う保育教諭、知らない仲間たちと過ごすことで緊張気味であったり、泣いていたりと、不安定な子もいました。しかし、あっという間に環境に慣れ、今では楽しく友達と遊んでいる姿を見かけます。子どもの環境への適応力の高さには驚かされます。

さて、入園式では寸劇「おおきなかぶ」を職員で行いました。劇中では、入園児にも参加を促し、声による参加をつくり、寸劇を通して、仲間と力を合わせて取り組むことの大切さを伝えました。

さらに、始業式においても入園式で行った寸劇を年中、年長児バージョンに直し、より仲間と協力することの大切さを理解できるようにしました。かぶを抜く場面になると、子ども達のほうから「がんばれ」と声援が溢れ、いっしょに劇を創り上げました。子どもの中には、寸劇に入り込み、夢中になって観ている子もいました。

今後も子ども達が夢中になって取り組む活動を仕組み、楽しいこども園をめざしくにすることが、子ども達の健やかな成長につながると確信しました。今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

ところで、お子さんは、こども園であったことをご家庭で話しますか？もし、あまり話さないようでしたら、「今日はだれと遊んだの？」「どんなことをしたの？」など、お子さんの様子に合わせて声をかけてあげてください。言葉による伝え合いを楽しむお子さんにしたいものです。

金魚に語りかける未満児

職員玄関を入ると、小さな水槽があります。その中に金魚が一匹元気に泳いでいます。いつもお腹が空いているのか人を見かけると水面に口を出しパクパクさせます。その様子が面白いのか、つぼみ組の子が思い思いの言葉で金魚に話しかけています。生き物の命を大切にする心情が育まれていることに気づきました。身の回りには様々な生き物がいます。なかでもダンゴ虫やてんとう虫など、子どもにとって親しみやすい虫もいますので、生き物に親しむ子を育てていきたいと考えております。



つぼみ組の入園式の様子



おおきなかぶの寸劇



おおきくなってね。

